

平成22年度 上田市役所
(丸子地域自治センター・真田地域自治センター・
武石地域自治センター)
ISO14001 に基づくEMSに関わる第三者監査
報 告 書

平成23年3月28日

上田市役所第三者監査チーム

上田市役所（丸子地域自治センター）の ISO14001 に基づく EMS について、平成 23 年 2 月 8 日及び 9 日に実施した環境監査の結果を、以下のとおり、ご報告申し上げます。

	項目	内容
1	被監査対象組織	長野県上田市役所丸子地域自治センター 長野県上田市上丸子 1612 被監査者代表者名：上田市長 母袋 創一 環境管理責任者：丸子地域自治センター長 関 義継 環境管理責任者：真田地域自治センター長 笠原 茂正 環境管理責任者：武石地域自治センター長 広川 裕助
2	監査者	監査チームリーダー：高遠祐一 監査チームメンバー：香遠英俊
3	目的	ISO14001 に基づく環境マネジメントシステム（以下「EMS」という）の維持状況を評価し、ISO14001 の自己適合宣言に相応しいものかどうかを判定する。
4	適用範囲	上田市役所の丸子地域自治センター・真田地域自治センター及び武地域自治センター内における施設のうち、適用範囲としている施設
5	適用規格	JIS Q 14001：2004（ISO 14001：2004）
6	適用文書	上田市環境マネジメントシステムマニュアル（2009.4）
7	実施日程	平成 23 年 2 月 8 日（火）～ 2 月 9 日（水）
8	実施計画	. 監査の実実施計画に示すとおり
9	監査結果	監査の結論、 監査総括所見、 部門別監査所見等に示すとおり
	付記事項	

監査内容に関する確認

依頼者

監査者

上田市長

監査責任者

母袋 創一

高遠 祐一

平成 23 年 3 月 28 日

平成 23 年 3 月 28 日

・監査の結論

監査チームは丸子地域自治センター、武石地域自治センター、真田地域自治センターが適用している上田市のISO14001に基づく環境マネジメントシステムの第三者による監査を実施し、システムの運用が行われていることを確認しました。

今後は、今までのそれぞれの自治センターの取り組みの特徴を生かし、持続可能な社会と未来に誇りうる自然環境共生都市の構築に向けて、本来業務にかかわる分野における目標を設定し、環境に配慮した効果的な活動を積極的に計画し、市民・事業者・各種団体と協働で行動することで、環境負荷低減、地球温暖化防止を図ることを期待します。

同時に監査チームは、監査総括所見、部署別の監査所見等について報告し、要改善事項等につきましては今後の適切な是正等を行い、PDCAのサイクルを回すことにより、パフォーマンスの向上を期待します。

・監査総括所見

1. 前回の第三者監査、内部監査の指摘事項等への対応について

丸子地域自治センターでは、平成21年度の第三者監査での改善項目に関しましての原因の明確化と改善確認結果が「第三者環境監査シート(丸子地域)」に記録されておりました。改善の状況は明記されていませんでしたので、監査対象課で実施状況とその有効性を確認しました。

平成22年度の内部監査では、3地域自治センターで運用状況等が確認され、一部の課を除きほぼ良好な判定結果が出されておりました。特に目標設定や達成度評価で優良の評価が多かったことは、仕事は成果が重要な考え方を監査員が持っており、心強く思いました。しかし一方で今回の第三者による監査での結果からは、ややもするとチェックの仕方や判定が未だ甘い状況も散見され、監査の有効性の面からは、今後に不安もあります。

2. 本来業務に結びつけた環境目標、エコオフィスうえだの環境目標の設定について

マネジメントレビューからの各地域自治センターでの環境目標の設定への指示等は、各環境管理責任者から聞くことができず、確認できませんでしたが、各課では積極的にいくつかの新しい本来業務(課題・目標)に結びついた環境目標の設定をされ、活動を展開されている状況があったことが確認でき、積極性を感じました。

しかし、その反面、事務分掌にある業務からの環境側面の抽出を踏まえて、有益な環境側面(行政としての影響力の発揮)からの環境目標の設定に繋げる余地がまだまだ有ると考えられます。

環境目標は、以前よりは、活動結果が評価できる状態等(数値又はパフォーマンス)が明確にされてきておりました。

今後は、半期・年度評価において環境目標を達成のために計画した手段の有効性評価をすることも重要であり、そのための評価手段を年度計画策定時に明確にすることを検討されたい。(行動していることがどの程度の効果を出しているかで、環境目標への寄与の状況が変わります。)

各地域自治センターでのエコオフィスうえだの目標値(温室効果ガス排出量)が設定され、行動がされておりますが、今後は職員や市民・団体等からの積極的削減のための仕事の仕方(サービスの提供、協働作業)や設備・機器の改善等への意見・提言(コミュニケーション行動)を環境活動に組み入れることも考慮されたい。

3. 目標に向かってのアプローチ(実施計画等)の的確性について

H22年度目標・活動計画が目標管理制度での「課の課題・目標・管理シート」とリンクさせ、6月ごろに作成されていることは、環境目標は業務課題の一部であるとの認識が向上し、マネジメント(システム管理)の改善につながっており、前回の第三者による監査の指摘の是正として確認できました。

4. 法令遵守について

いくつかの課で廃棄物処理法の法規制管理面で不備な状況がありました。(産業廃棄物置場の掲示版が法の規定に沿ったものでない、マニフェストの照合確認がされていない、年度の管理表交付状況報告書が提出されていない等。)各管理部署の推進員(担当者)の教育訓練(引き継ぎ含む)の不備、監視測定による順守評価の信頼性の欠如等、組織のマネジメントの弱さが見られました。また、これらを発見できなかった内部監査の仕方、監査員の力量不足も問題と考えます。関連する部署を取り込んでの是正対応が必要です。

5. その他気付いた点

・各地域自治センター長が参加しない自治センターの第三者による監査の有効性は、本来認められないはずですが、理由は、組織の長のマネジメントが確認できないからです。今回の第三者による監査の結果を今後の各自治センターの環境活動に活用するため、今回の監査結果への今後の対応方針(考え方)を後日監査員へお話していただけることを期待します。

・真田地域自治センターは、「エコアクションなごの」からISO14001へEMSが変更になり、意欲的なシステム運用がされておりますが、いくつかの点で運用の改善が必要と思われます。他の自治センターの推進者、環境事務局とのコミュニケーションや支援を受けて、早期に効果的なシステムの運用がされることを希望します。また、「エコアクションなごの」の貴重な経験からの上田市のシステム改善への意見もあると思いますので、積極的な提言を期待します。

以上

・部門別の監査所見等

様式2:部門監査報告書

被監査部門名	丸子地域自治センター、副環境管理責任者、市民生活課
被監査者	関尾市民生活課長(副環境管理責任者)、曲尾係長(推進員)、堀内係長
監査日時	2011年2月8日(火) 9:30 ~ 11:00
監査員	監査リーダー:高遠 祐一 監査メンバー:香遠 英俊
前回監査・審査等での指摘事項への対処状況	・前回監査の是正状況(丸子地域自治センター全体のまとめと思われる文書) 第三者環境監査シートで、平成21年度での改善が必要な事項への対応は明確にされていたが、改善状況欄には確認したとの表現のみで、改善の内容は明確にはされておらず、この文書では改善の状況は判断できません。監査の中では改善が適切に行われている状況を確認しました。

総括所見	本来業務に絡むチャレンジする新規の目標が設定され、活動が効果的に実施され、成果も上がっており、また法的要求事項の見直し、灯油タンクの管理手順の作成等、環境リスクへの予防対応も実施され、環境への取り組みは向上してきていました。
1 特筆事項 (留意事項等)	丸子地域自治センターとして環境マネジメントシステムを推進していく上で、自治センター長の役割はたいへん重要です。環境管理責任者が平成21年度の活動の成果等を取りまとめ、環境管理総括者に提出された情報は、副環境管理責任者からは確認できませんでした。環境未来都市うえだに向けて、取組の基本的方向と重点施策の指示事項を含め、センター長の環境活動への思い等は確認できませんでした。
2 職員の環境 配慮意識	(前年度比) 向上 維持 低下 【事実の整理と所見】 朝礼で外部研修の報告がされており、新人教育も行われ、ハンドブックが携帯され、システムの理解や意識の定着が図られていました。
3 環境活動内容 の適切性	(前年度比) 適切な取組内容 ほぼ適切な取組内容 やや不適切な内容 【事実の整理と所見】 新エネルギービジョンの展開として、LED普及への取り組みが開始されていた。丸子解放センター灯油タンクの管理手順書が整備され、11月~1月にかけて点検が実施され、2月には緊急事態への対応訓練も実施されていました。
4 環境活動結果 の妥当性	(活動内容比) 計画どおり実施 ほぼ計画どおり実施 未実施が多い 【事実の整理と所見】 計画に基づき運用されていました。平成21年度、平成22年度上半期の環境目標の達成状況は、おおむね良好でありました。エコオフィス活動から市民への情報発信といった本来業務に関連する活動が展開されていました。
5 環境活動全般 の有効性	(前年度比) 有効性が高い ほぼ有効 有効性は低い 【事実の整理と所見】 環境影響評価表で、事務事業の内容表現が具体的にされ、新規の目標2件も設定され、丸子地域自治センターの法的要求事項一覧表の見直しもされ、システムの効果的活用が進んでいました。今後、環境意識の啓発目標については、行動手段のみならず、効果を計る指標の検討が必要と考えます。

改善提案・意見等

地域自治センター長の指示と設定目標の関連は組織運営上重要であります。また、不法投棄パトロール等の活動の成果確認のためには行動の結果のみならず、その効果を図る指標の設定が必要と考えます。(計画、実施の結果としての評価が大切であり、効果が出なければ取組手段は変更が必要となります。)

市民との直接対話をする窓口として、更なる内部コミュニケーションや市民への情報発信に努めていただきたい。

個別指摘事項等

No	評価	指摘事項	規格要求事項
-01	推奨 改善 指摘	本来業務とリンクしての新規の環境目標が設定され、活動が展開されていきました。	4.3. 目的、 目標及び実施計画
-02	推奨 改善 指摘	地域自治センターの環境管理責任者の年度方針・指示事項(基本的な取組の方向や重点実施事項)と環境影響評価表の評価からの環境目標の設定なのかの関連を明確にしておくことを検討されたい。 (組織の長の目標が各課への目標展開することが重要です。)	4.3.3 目的、目標及び実施計画
-03	推奨 改善 指摘	環境目標、計画は進捗管理(上半期等での)で、第三者でも環境面での達成度評価ができる姿(目標達成のあるべき姿や行動のできばえ等)を明確にすることが必要です。	4.3.3 目的、目標及び活動計画
-04	推奨 改善 指摘	地域自治センター長による環境管理総括者への環境マネジメントシステムレビューのための情報の内容は確認できませんでした。	4.6 マネジメントレビュー 4.4.3 コミュニケーション
-05	推奨 改善 指摘		
-06	推奨 改善 指摘		
-07	推奨 改善 指摘		
-08	推奨 改善 指摘		
-09	推奨 改善 指摘		
-10	推奨 改善 指摘		

様式2:部門監査報告書

被監査部門名	丸子地域自治センター 丸子上下水道課
被監査者	松村課長、土屋係長
監査日時	2011年 2月 8日(火)11:00~12:00
監査員	監査リーダー:高遠 祐一 監査メンバー:香遠 英俊
前回監査・審査等での指摘事項への対処状況	平成22年度内部監査での指摘は無い。(優良が1件あった。)

総括所見		ライフラインである水の維持管理を適切に行っている。(和子処理場での管理を確認) 安全管理はもとより、より一層の水資源の大切さと行政との協働の啓蒙に努めて頂きたい。
1	特筆事項 (優良事項等)	
2	職員の環境 配慮意識	(前年度比) 向上 維持 低下
		【事実の整理と所見】 委託先への指示も行われていました。 農業集落排水処理場への接続、浄化槽の普及推進を計画的に行っていました。
3	環境活動内容 の適切性	(前年度比) 適切な取組内容 ほぼ適切な取組内容 不適切な内容
		【事実の整理と所見】 農業集落排水処理場の3か所を管理している(水質の確認、機器・設備点検管理を1回/月行っていました)。 汚泥流出等を含む緊急及び非常時の連絡体制が明確にされ、和子処理場に掲示されていた。 3年前に連絡訓練は実施されていました。
4	環境活動結果 の妥当性	(活動内容比) 計画どおり実施 ほぼ計画どおり実施 未実施が多い
		【事実の整理と所見】 本来業務に絡み環境目標が設定され、上半期の結果は良好でありました。 水に関するイベント・フェアを9月に開催し、啓蒙に努めていました。 汚泥運搬は長門興産に委託され、清浄園で処理されていました。
5	環境活動全般 の有効性	(前年度比) 有効性が高い ほぼ有効 有効性はやや低い
		【事実の整理と所見】 イベント参加人数以外の有効性を判断する基準を考えると更に良いと思います。 緊急連絡訓練が最近行われていないが、担当者の異動も考えられるので、施設管理者や長門興産も含めて、毎年実施することが必要ではないでしょうか。

改善提案・意見等

薬品の保管基準は法規制との関連づけを明確にされ、担当者に周知されたい。
環境リスク対応は関係者を含めて、定期的な対応が必要と考えます。

個別指摘事項等

No	評価	指摘事項	規格要求事項
-01	推奨 改善 指摘	緊急時の連絡訓練は、関係者を含めて、定期的に実施することが、 リスク管理上必要と思います。考慮されたい。	4.4.7 緊急事態への準備及び 対応
-02	推奨 改善 指摘		
-03	推奨 改善 指摘		
-04	推奨 改善 指摘		
-05	推奨 改善 指摘		
-06	推奨 改善 指摘		
-07	推奨 改善 指摘		
-08	推奨 改善 指摘		
-09	推奨 改善 指摘		
-10	推奨 改善 指摘		

様式2:部門監査報告書

被監査部門名	丸子地域自治センター 丸子地域振興課
被監査者	中山次長、芦澤課長補佐、翠川主査、尾美主査
監査日時	2011年 2月 8日(火)13:00~14:00
監査員	監査リーダー:高遠 祐一 監査メンバー:香遠 英俊
前回監査・審査等での指摘事項への対処状況	第三者監査:緊急時の訓練が未実施の件は3月に実施を確認。 安全作業確認書(給油)に従い緊急事態の訓練には職員も立ち会っていました。 内部監査:指摘はなし(優良2件)。

総括所見	丸子地域自治センターの庁舎管理、公共事業、地域団体との交流など、業務は多種に及び、環境ともかかわりの深い課であり、今後も中心的な役割を果たすことを期待します。 廃棄物の順守管理が不十分であることは問題であり、担当者への教育の徹底が必要と思います。
1 特筆事項 (優良事項等)	多岐にわたる業務で、新規環境目標が2件設定され、多くの目標への取り組みが推進されました。特にエコオフィス活動では、ガソリン使用量の削減、電気使用量の削減目標が設定され、活動が展開されていました。また、「地域自治センター便り」等で市民への啓蒙活動を行っていました。
2 職員の環境 配慮意識	(前年度比) 向上 維持 低下 【事実の整理と所見】 課長・係長研修を履修した職員による職場内の教育を充実されると更に良い活動が展開されると思います。
3 環境活動内容 の適切性	(前年度比) 適切な取組内容 ほぼ適切な取組内容 不適切な内容 【事実の整理と所見】センター内のグリーン購入率は予定以上の実績をあげていました。 依田川リバーフロント事業ではアンケートを実施し、市民とのコミュニケーションが図られていました。 また、アレチウリ駆除、内村川・依田川合流点への公園整備構想(案)策定などが取り組まれ、環境整備での今後に期待ができます。
4 環境活動結果 の妥当性	(活動内容比) 計画どおり実施 ほぼ計画どおり実施 未実施が多い 【事実の整理と所見】 灯油や紙・電気の使用量は増えているが学校教育の支援や選挙によるものでありやむを得ない状況がありました。 「地域自治センター便り」等を使って市民への環境活動の呼びかけを行っており、本来業務として適切に展開されていました。
5 環境活動全般 の有効性	(前年度比) 有効性が高い ほぼ有効 有効性は低い 【事実の整理と所見】 ボイラーの煤煙測定、灯油地下タンクの漏洩検査や騒音測定は実施され問題は無かったが、廃棄物置場への掲示板は地面に置いてあり、マニフェストの照合確認の記入が無く、さらに平成21年度管理票の交付状況報告書が提出されていないなど、廃棄物管理が適切には実施されていない状況等、法規制の順守管理面で問題がありました。

改善提案・意見等

法規制の順守について

廃棄物置場にて廃棄物保管所の掲示版が地面に置かれていました。廃棄物は種類ごとに置場を分け、廃棄物の置き場である旨の表示をしなければならない(廃掃法:産業廃棄物の保管場所がある場合(表示義務):規則第7条の3、第7条の5、第8条、第8条の10の2、第8条の10の4、第8条の13 関連)とされています。掲示が必要です。確実に掲示してください。

マニフェストの照合確認欄の記入が未実施でした。最終処分確認票(E票)の返却を確認し、記載し、一定期日以内の返却確認が必要です。マニフェストの県への報告を行った記録が確認できませんでした。担当職員への教育と報告書の提出が未実施であれば報告が必要です。

個別指摘事項等

No	評価	指摘事項	規格要求事項
-01	推奨 改善 指摘	廃棄物の法規制への順守管理が実施されていませんでした。	4.6 運用管理
-02	推奨 改善 指摘		
-03	推奨 改善 指摘		
-04	推奨 改善 指摘		
-05	推奨 改善 指摘		
-06	推奨 改善 指摘		
-07	推奨 改善 指摘		
-08	推奨 改善 指摘		
-09	推奨 改善 指摘		

様式2:部門監査報告書

被監査部門名	丸子地域自治センター 丸子社会教育課
被監査者	竹内課長、松村係長
監査日時	2011年 2月 8日(火)14:00~15:00
監査員	監査リーダー:高遠 祐一 監査メンバー:香遠 英俊
前回監査・審査等での指摘事項への対処状況	平成 22 年度内部監査:指摘は無い。(優良 1 件)

総括所見	施設利用者への啓発活動は継続的に行われているが、その成果の確認の工夫や施設の維持管理からの省エネルギー活動への積極的関与が望まれます。
1 特筆事項 (優良事項等)	5 年間、文化会館・体育館ほかの施設で利用者の乗り合いを推進しているが、その効果の検証は出来ないとの回答であった。新たな取り組みを期待します。
2 職員の環境 配慮意識	(前年度比) 向上 維持 低下 【事実の整理と所見】 表示板に廃材を利用するなど、率先して廃棄物の抑制に努めています。 グリーン購入の推進で、グリーン購入数だけでなく、新たに対象品の選定とその購入できたものをチェックすることが重点となります。
3 環境活動内容 の適切性	(前年度比) 適切な取組内容 ほぼ適切な取組内容 不適切な内容 【事実の整理と所見】 文化センター、公民館、信州国際音楽村などで行われるイベントで乗り合わせ来場をお願いしていることは、参加者への環境意識の啓蒙として評価できます。 リース車のガソリン使用量、紙の使用量が把握されていた。しかし、省エネルギーへの対応は確認できませんでした。
4 環境活動結果 の妥当性	(活動内容比) 計画どおり実施 ほぼ計画どおり実施 未実施がある 【事実の整理と所見】 丸子公民館の消防計画にある防災訓練が 10 月実施の予定となっているが未実施であった。法的要求事項等監視及び測定年間計画兼順守状況確認表で監視及び測定結果がまとめられていませんでした。
5 環境活動全般 の有効性	(前年度比) 有効性が高い ほぼ有効 有効性はやや低い 【事実の整理と所見】 5 年間、活動計画が変わっていません。活動の結果(パフォーマンス)を検証できるように工夫が必要と思われます。 施設管理でもエネルギー等の削減目標はなくとも、維持管理手段を工夫されたい。 特殊消防用設備等の点検は 9 月に(株)ミヤマにより実施されていました。

改善提案・意見等

多くの施設の運営管理を担当し、自らの環境活動と共に、施設を利用する市民等への環境への取組の協力や啓蒙活動が実施されていますが、継続的活動ではその成果の把握に工夫が必要となります。また、利用者の安全確保のための防災訓練は計画に則っての実施が必要です。

個別指摘事項等

No	評価	指摘事項	規格要求事項
-01	推奨 改善 指摘	活動では何を実施するかと共に、その効果が確認できる指標の設定が必要となります。啓発活動の成果の把握の工夫が必要と考えます。	4.5.1 監視及び測定
-02	推奨 改善 指摘	丸子公民館の消防計画にある防災訓練が10月実施の予定となっているが未実施であった。速やかに実施が必要と思われます。	4.4.7 緊急事態への準備及び対応
-03	推奨 改善 指摘	表示板に廃材を利用するなど率先して廃棄物の抑制に努めていました。	4.4.6 運用管理
-04	推奨 改善 指摘		
-05	推奨 改善 指摘		
-06	推奨 改善 指摘		
-07	推奨 改善 指摘		
-08	推奨 改善 指摘		
-09	推奨 改善 指摘		
-10	推奨 改善 指摘		

様式2:部門監査報告書

被監査部門名	武石地域自治センター、副環境管理責任者、武石地域振興課
被監査者	伊藤課長、小林課長補佐、児玉係長
監査日時	2011年 2月 9日(水)9:30~11:00
監査員	監査リーダー:高遠 祐一 監査メンバー:香遠 英俊 鈴木 義光 オブザーバー:小川原 桜井
前回監査・審査等での指摘事項への対処状況	平成22年度内部監査:指導2件あり。 ・新たな環境目標が設定されていない 課の独自の目標を追加していました。 ・緊急時の訓練が未実施 H23.1.20 訓練実施済みでした。

総括所見	上田市の環境マネジメントシステムの運用開始から日が浅いこともあるが、行政における環境マネジメントシステム運用による、期待される結果(本来業務がらみの環境行動、リスク予防管理、法規制等の順守管理)を確保する管理(PDCAサイクル)が未だきちんと実施されている状況とはなってはいませんでした。今後、システムの運用管理を強化していく必要があります。武石地域自治センターの庁舎管理、公共事業、地域団体との交流など業務は多くあり、環境とのかかわりが深い課でもあり、今後も中心的な役割を果たすことを期待したい。
1 特筆事項(優良事項等)	地域自治会や地域協議会で武石地域全域公園化構想を打ち立てて自然との共存を推進していました。
2 職員の環境配慮意識	(前年度比) 向上 維持 やや低い 【事実の整理と所見】 平成22年度の課内研修は実施されてはいませんでした。技能の必要な作業は課内での研修を充実し、力量の向上を図ることを考慮されたい。
3 環境活動内容の適切性	(前年度比) 適切な取組内容 ほぼ適切な取組内容 不適切な内容 【事実の整理と所見】 「地域自治センター便り」で積極的に情報を発信していました。また、地域自治センター便りの紙の使用については再生紙を使用していました。 様式G1を使用して環境目的・目標が6月に検討されていました。 内部監査の指摘を受け、新規の環境保全事業での環境目標が設定されていました。
4 環境活動結果の妥当性	(活動内容比) 計画どおり実施 ほぼ計画どおり実施 未実施が多い 【事実の整理と所見】 施設維持、ボイラー重油、灯油の保管・維持管理、ごみの分別は適切でした。 様式M7を使用し、自然・環境と一体となった地域性豊かな環境整備の進捗が確認されました。
5 環境活動全般の有効性	(前年度比) 有効性が高い ほぼ有効 有効性はやや低い 【事実の整理と所見】 武石地域自治センターの光熱水の削減が上半期評価では×であるが、進捗のコメントが記入されてはいませんでした。(是正処置も実施されてはいません。) 緊急事態への対応訓練は実施されましたが、灯油貯蔵管理手順の有効性評価はされてはいませんでした。訓練は業者も加えて行うと更に効果的であります。 マニフェストの照合確認、管理表交付状況報告書が提出されてはいませんでした。

改善提案・意見等

・法規制の順守について

廃棄物置場の廃棄物保管所の掲示板が、法令で決められているものではありませんでした。廃棄物は種類ごとに置き場を分け、廃棄物の置き場である旨の表示をしなければならない(廃掃法:産業廃棄物の保管場所がある場合(表示義務):規則第7条の3、第7条の5、第8条、第8条の10の2、第8条の10の4、第8条の13 関連)とされています。法に適合した掲示が必要です。

マニフェストの照合確認欄の記入が未実施でした。最終処分確認票(E 票)の返却を確認し、記載が必要です。(法が決めている照合確認の目的、問題があった場合の処置についても担当者は確認してください。)

また、平成 21 年度のマニフェスト交付状況報告書の県への報告を行った記録が確認できませんでした。担当職員への教育と未実施であれば報書の提出が必要です。

・上田市の環境マネジメントシステムの効果的運用のために、事務局等の支援を受けて、主体的な力量確保のための職場内での教育訓練が必要と思われます。

個別指摘事項等

No	評価	指摘事項	規格要求事項
-01	推奨 改善 指摘	平成 21 年度の廃棄物の管理表交付状況報告が提出されていませんでした。早期に提出が必要です。	4.6 運用管理
-02	推奨 改善 指摘	上田市の環境マネジメントシステム運用開始から日が浅いため、環境マネジメントシステムの運用管理、法規制等の順守管理等充実のため、管理者、担当者等の力量確保のための主体的な教育訓練の計画策定とその実施が必要です。	4.4.2 力量、教育訓練及び自覚
-03	推奨 改善 指摘	市長へのマネジメントレビューのための必要な情報を提出した状況は検証できませんでした。	4.6 マネジメントレビュー 4.4.3 コミュニケーション
-04	推奨 改善 指摘		
-05	推奨 改善 指摘		
-06	推奨 改善 指摘		
-07	推奨 改善 指摘		
-08	推奨 改善 指摘		
-09	推奨 改善 指摘		
-10	推奨 改善 指摘		

様式2:部門監査報告書

被監査部門名	真田地域自治センター、副環境管理責任者、真田地域振興課
被監査者	小林課長、中村係長、小林(宗)主査
監査日時	2011年2月9日(水)13:30~15:00
監査員	監査リーダー:高遠 祐一 監査メンバー:香遠 英俊 オブザーバー:小河原
前回監査・審査等での指摘事項への対処状況	平成22年度内部監査:優良1件、指導1件。 ・緊急時の訓練が未実施 H23.2.1 に実施済みでありました。 手順書のテストの結果、課長への内線番号を記載するように手順書の改定を手配中。

総括所見	「エコアクションながの」から上田市のISO14001環境マネジメントシステムへの移行がなされ、環境マネジメントシステムの運用、エコオフィス活動から本来業務に伴う目標の設定がなされていきました。しかし、廃棄物処理法に係る運用面の一部に不備がありました。
1 特筆事項 (優良事項等)	新たな職員2名への環境マネジメントシステム研修がきちんと実施されている事を確認しました。
2 職員の環境 配慮意識	(前年度比) 向上 維持 低下
	【事実の整理と所見】 ISO14001環境マネジメントシステムの運用が開始され、環境影響評価から、目的・目標検討表、環境目標の設定、実施計画表の作成等が実施されていました。 職員の努力で電気の削減6%の目標に対し、-9.1%を達成していました。(継続して維持活動として取り組んでいくことが望ましいと思います。)
3 環境活動内容 の適切性	(前年度比) 適切な取組内容 ほぼ適切な取組内容 不適切な内容
	【事実の整理と所見】 住民の環境に関する意識の啓発を図るため、「真田自治センター便り」を発行していました。マイバックの持参の呼びかけも行っていました。 真田地域自治センターの軽油施設管理手順書が、H22年7月に作成されていました。
4 環境活動結果 の妥当性	(活動内容比) 計画どおり実施 ほぼ計画どおり実施 未実施が多い
	【事実の整理と所見】 環境目標の上半期評価は でありました。 地域協議会へ働きかけて、安心できる町づくりを行っていましたが、結果を確認できませんでした。課の目標である環境目標とはされてはいませんでしたが、環境保全等でも重要な活動なので、今後は環境目標としてとらえ、管理することを考慮されたい。
5 環境活動全般 の有効性	(前年度比) 有効性が高い ほぼ有効 有効性はやや低い
	【事実の整理と所見】 啓発活動は「真田自治センター便り」の発行が目標となっていました。啓発の効果確認をし、地域協議会や市民の意見を求めて、内容等の充実が必要です。 緊急事態への対応訓練に業者も参加して、実施していました。 平成21年度廃棄物の管理表等交付状況報告書が未だ提出されてはいませんでした。

改善提案・意見等

・法規制の順守について

平成 21 年度マニフェストの交付状況報告書の県への報告を行った記録が確認できませんでした。

担当職員への教育と、未実施であれば報告が必要です。

地下のヒートポンプは騒音の規制に該当するかどうかの確認が必要です。

「エコアクションながの」のシステム運用の体験から、上田市の環境マネジメントシステムに対して提言等も必要です。

個別指摘事項等

No	評価	指摘事項	規格要求事項
-01	推奨 改善 指摘	市長へのマネジメントレビューのための必要な情報を提出した状況は検証できませんでした。	4.6 マネジメントレビュー 4.4.3 コミュニケーション
-02	推奨 改善 指摘	「エコアクションながの」から ISO14001 上田市環境マネジメントシステムへ移行したが、環境マネジメントシステムが重い印象があるとの意見がありました。環境マネジメントシステムの運用を通しての改善意見等を職員から募り、集約し、事務局に提案することも重要な環境活動です。(ISO要求事項は定型ではありません。規格の意図を満たしておればシンプルな環境マネジメントシステムの方が効果的な場合が多くあります。)	4.1 一般要求事項 4.4.3 コミュニケーション
-03	推奨 改善 指摘	平成 21 年度廃棄物管理票交付状況報告者が未だ提出されてはいませんでした。早急に提出が必要です。	4.4.6 運用管理
-04	推奨 改善 指摘		
-05	推奨 改善 指摘		
-06	推奨 改善 指摘		
-07	推奨 改善 指摘		
-08	推奨 改善 指摘		
-09	推奨 改善 指摘		
-10	推奨 改善 指摘		

監査計画

丸子地域

1日目 2月24日(水) 丸子地域自治センター3階第4会議室			
NO	時間	対象	監査員
午前	10:00~11:00	丸子市民生活課	高遠祐一(市民代表) 香遠英俊(小柳産業株)
	11:00~12:00	丸子上下水道課	
午後	13:00~14:00	丸子地域振興課	
	14:00~15:00	丸子社会教育課	

2日目 2月25日(木) 丸子地域自治センター3階第4会議室			
NO	時間	対象	監査員
午前	10:00~11:00	武石地域振興課	高遠祐一(市民代表) 高橋一郎(三洋精密株) 小川原伊吹(信州大学繊維学部) 桜井裕司(飯田市役所) 鈴木義光(飯田市役所)
午後	13:30~14:30	真田地域振興課	高遠祐一(市民代表) 高橋一郎(三洋精密株) 小川原伊吹(信州大学繊維学部)

* 上記以外に、監査終了後、監査チーム会議、クロージング・ミーティングを実施しました。